

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木祐二

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

カレイ釣り実習

1-2. 学年

2 学年 選択生徒

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

学校設定科目 環境保護 地域と自然

1-4. 単元の概要

標津の主要水産魚種であるカレイ類を釣獲により調査、分類することで豊富な魚種を理解する。また、カレイ類以外の魚類についても学びを深める。釣り上げたカレイは、測定、分類を行い、その体制を理解するために解剖を実施する。消化管内の調査から食性を理解する。

釣りというレジャーを通して海洋に親しむ態度を育成し、さらに乗船し沖合へ出ることで海の楽しみを実感する。さらに、乗船中は、海鳥類の観察やイルカやクジラを観察し、オホーツク海根室海峡の雄大な自然を体感する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 1 標津沖で漁獲される主要水産生物であるカレイを釣獲により採集し、生態を学ぶことから標津沖の海洋環境を考え、持続可能な資源の利用について考える。（自然環境系科目）
- 2 海洋レジャーを楽しむことで海に親しみを感じ、海の豊かさを実感することで海洋環境保全に向けて進んで取り組む姿勢を身につける。（海洋教育パイオニアスクール単元開発）

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海に親しみ楽しむ態度や率先して海洋環境を保全していこうとする行動力。
- ・身近な海の資源の豊かさを実感し、海と陸の繋がりを理解し、海の豊かさと陸の豊かさを合わせて環境を守る態度。
- ・主要な魚類であるカレイを解剖学的、生態学的側面から理解し、持続可能な資源管理について考える。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	仕掛け作り ・カレイを釣る仕掛けを調査する ・カレイの釣り方を調査 ・船用のカレイ仕掛けを自作する	プランクトン実習 ・プランクトンネット（100 μ メッシュ） ・サンプル瓶 プランクトンの採集については、海の公園にて実施。
2	カレイ釣り・乗船実習 ・各自が作った仕掛けでカレイを釣る ・海鳥、鯨類の探索	ー教師の指導ー プランクトンネットの使い方を身につけさせる 双眼実体顕微鏡の使用方法を身につけさせる。 解剖顕微鏡の使い方を身につけさせる。 分類のためのスケッチをフィールド手帳へ実施
10	分類解剖 ・実際に釣ったカレイを分類、解剖することで体内の構造などを理解する。	<評価> ・プランクトンネットが使えるか ・サンプル処理法が理解できたか ・スケッチができたか 仕掛け作り・カレイ釣り・乗船実習・分類解剖 ー教師の指導ー 仕掛け作りの補助 釣り方の指導 乗船時の安全指導 分類・解剖に関する指導 <評価> ・仕掛け作りに関して調べ学習ができたか ・自ら釣りの準備、片付けができたか ・カレイ類の分類、解剖を行い、その特徴を掴むことができたか

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

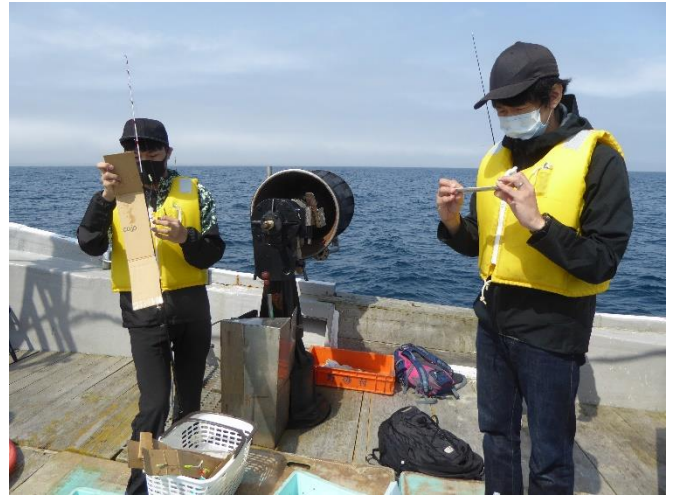
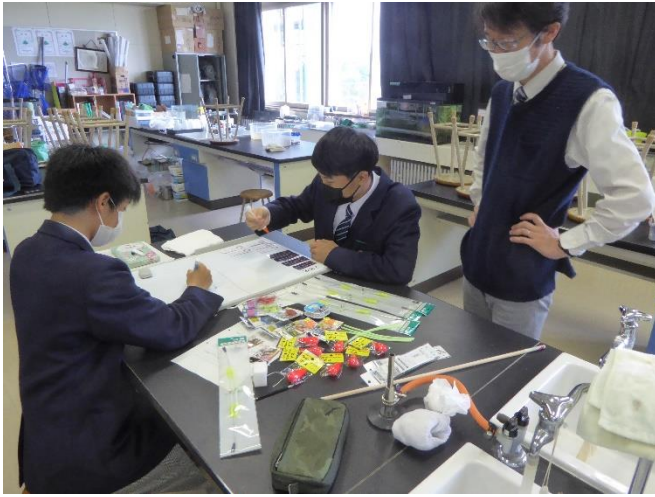
2-2. 本時の目標

カレイ釣り・乗船実習・分類・解剖

- ・標津沖で漁獲される主要水産生物であるカレイを釣獲により採集し、生態を学ぶことから標津沖の海洋環境を考え、持続可能な資源の利用について考える。
- ・海洋レジャーを楽しむことで海に親しみを感じ、海の豊かさを実感することで海洋環境保全に向けて進んで取り組む姿勢を身につける。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
カレイ釣り・乗船実習 ＜各自で標津港へ集合＞ 乗船前にあいさつ 乗船に向けて注意事項 ＜乗船～下船＞ 安全確認をしながら、沖合へ ・海鳥類の観察 ・イルカの観察 ・準備ができ次第、釣りを実施 ・片付け ＜分類・解剖＞ ・釣獲したカレイを図鑑を参考に分類 ・外部形態を観察し、ヒレの位置、側線器官、肛門等の位置を確認する。 ・腹部の解剖から消化管を観察し、他の魚種との違いを比較する。	事前準備 ・船の手配 ・仕掛けの準備 実施当日 ・生徒の安全確認 ・教員研修としての海洋教育の実施 ・カレイは冷凍保管 評価の視点 ・各自で準備及び片付けができるか ・分類ができたか ・他魚種との比較することができたか ・解剖道具を正しく使うことができたか



3. 今回の活動の自己評価

カレイ釣り実習として乗船を行い、同時に鯨類の観察、海鳥類の観察も行うことができた。特に、カマイルカの群れは、壮大で生徒にとって貴重な体験となった。釣りのための仕掛け作りから釣獲まで一貫して自分で行うことで達成感を得ることができた。また、海洋教育パイオニアスクールの教員研修として、他教科の教員に乗船してもらい、海洋の視点からの授業展開への参考にってもらうことができた。

4. 今後の課題

時期的に1ヶ月早めることで大型のカレイを釣ることができる。ただ、天候が不安定なため、8月実施も良い時期である。ホタテの漁場近くで釣りを行うため、漁業の様子の見学もできるとさらに学習が深まると考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし